


施策評価調書〔途中評価(平成30年度実施)〕

長崎県総合計画における位置付け

| | | | | | |
|-------|-------------------------------|-------------|---------------|----------------------|---|
| 作成年月日 | | 平成30年10月26日 | 長崎県総合計画記載ページ | 67 | P |
| 将来像 | 次代を担う『人財』豊かな長崎県 | | 施策主管所属 | 教育庁義務教育課 | |
| 基本戦略名 | 5 次代を担う子どもを育む | | 課(室)長名 | 課長 木村 国広 | |
| 施策名 | (4) 我が国と郷土を愛する心や豊かな人間性、社会性の育成 | | 施策関係所属(部局名課名) | 教育庁高校教育課 生涯学習課 学芸文化課 | |

1 施策の内容

| | | |
|--|---|---|
| <p>【取組の概要】</p> <p>我が国と郷土の歴史や伝統文化について理解を深めるとともに、愛する態度を育み、国際社会で活躍する人材や地域を担う人材を育成します。また、公共の精神を育むとともに、豊かな人間性や社会性を育成し、創造力を豊かにします。</p> |  | <p>【めざす姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が国と郷土の伝統・文化や自然を誇りに思い、国際社会を生き抜く力を持った子どもが育っている。 ・いのちを重んじ、心豊かでたくましい子どもが育っている。 |
|--|---|---|

2 施策の進捗状況と評価

施策の進捗状況の評価

□ A : 順調 ■ B : やや遅れている □ C : 遅れている

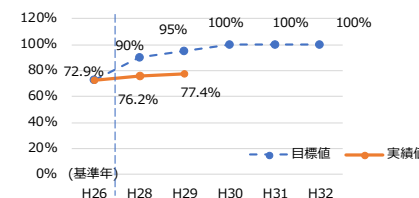
<<これまでの成果>>

- 本県独自の郷土学習資料「ふるさと長崎県」を県内全ての中学校第1学年生徒全員に配布し、学校教育の様々な場面で活用することにより、郷土についての教育の充実を図り、長崎や身近な地域に対する理解を深め、郷土を理解する教育を推進できた。
- 「しま」への修学旅行の推進をはじめ学校内外における自然体験の重要性について各種研修会等を通じて発信することができた。

<<進捗状況に課題がみられる分野>>

- 「郷土長崎への理解と愛情のある児童生徒の割合(小・中学校)」については、平成29年度の実績が82.3%であり年々増加しているものの各年度の目標には到達していない状況である。
- 「自然体験活動に取り組んでいる小・中学校の割合」については、平成29年度の実績が82.6%であり横ばいの状況である。

我が国の伝統や文化について理解と愛情のある児童生徒の割合(小・中学校)



3 施策の成果指標の進捗状況

| 指標 | | 基準年 | H28 | H29 | H30 | H31 | H32 | 最終目標(年度) | 進捗状況の分析 |
|-------------------------------------|------|---------------|-------|-------|------|--------|--------|---------------|---|
| 我が国の伝統や文化について理解と愛情のある児童生徒の割合(小・中学校) | 目標値① | / | 90% | 95% | 100% | 100%維持 | 100%維持 | 100%維持(H32年度) | 社会科や総合的な学習の時間をはじめとする様々な学習場面において、郷土長崎の良さに目を向けさせる指導が全ての学校で着実に展開されており、数値は着実に向上している。ふるさとに誇りを持ち、ふるさとを担っていこうとする子どもを育むために、今後は学校教育の中だけでなく、家庭や地域社会と連携しながら、地域ぐるみでの教育活動を展開していく必要がある。 |
| | 実績値② | 72.9% (H26年度) | 76.2% | 77.4% | | | | 進捗状況 | |
| | ②/① | / | 84% | 81% | | | | やや遅れ | |

4 新たな課題や社会情勢の変化等

●少子高齢化や人口減少の加速化など地域社会の環境が大きく変わる中、ふるさと教育の取組を一層強化し、児童生徒のふるさとへの愛着や誇りを育むとともに、ふるさとを担おうとする姿勢を育む必要がある。

●将来の長崎県を支える人材の育成のためには、新しい価値の創出に挑む意欲を喚起し、多様な挑戦が連鎖的に起こるような教育活動を促進していくことが重要である。そのために、地域の課題解決に積極的に取り組んだり、生徒自らが企画や運営を行ったりするなど、生徒の資質能力を向上させる機会を積極的に提供することが求められている。また、こうした経験の中で自ら培った創造性や行動力、そしてチャレンジ精神等を実社会の中でも活かしていこうとする意欲や態度を高めていくことも併せて求められている。



5 課題を踏まえた今後の対応方針

●本県独自の郷土学習資料「ふるさと長崎県」を引き続き、県内全ての中学校第1学年生徒全員に配布し、学校教育の様々な場面で活用することにより、郷土についての教育の充実を図り、長崎や身近な地域に対する理解を深め、豊かな郷土愛、本県を担っていこうとする心情を育成する。

●人口減少や少子高齢化の進行など地域が抱える課題を発見し、これらの課題にどのように立ち向かえばよいか、考え行動する学習を行うことにより、児童生徒に地域に主体的に貢献しようとするなどの社会参画に必要な資質・能力を育むことをとおして、地域を担おうとする実践力を育てる。

●地域総ぐるみで教育活動を展開するコミュニティ・スクールをモデル校に指定し、子どもたちが地域の人々とふるさとの資源を活用し、ふるさとのためにできることを考える教育活動を通して、社会の一員としての自覚を深めさせる。

●産・学・官の連携強化により、長崎で輝く人や企業を子どもたちに紹介し、それぞれの志や努力に触れさせることにより、ふるさとに対する愛着や誇りを育む。

●市町と連携した地方創生型探究学習や、地元企業等との協働・連携によるイベントの企画運営などを通じて、自主性や主体性をはじめ、コミュニケーション能力、行動力等を養うとともに、母校愛・郷土愛を育み、本県の活性化に資する人材の育成を行う。

6 施策を推進する事業群の状況

事業群①「ふるさとを愛し、我が国と郷土長崎に誇りを持つ子どもの育成」

事業群評価調書 5-(4)-①④ 参照

事業群②「豊かな道徳性を育む道徳教育の推進」

事業群評価調書 5-(4)-②③ 参照

事業群③「社会の様々な課題を主体的に判断できる力や政治に参画する態度を育てる教育の推進」

事業群評価調書 5-(4)-②③ 参照

事業群④「子どもたちが直接自然と触れ合う体験活動や農山漁村での交流体験の推進」

事業群評価調書 5-(4)-①④ 参照

事業群⑤「表現力や創造力を高める子どもの読書活動の推進」

事業群評価調書 5-(4)-⑤ 参照

事業群⑥「創造性や独創性など豊かな人間性を育てる子どもたちの文化芸術活動の推進」

事業群評価調書 5-(4)-⑥ 参照